

報告

「東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻

(東大 SPH) のヘルスコミュニケーション教育」

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学
木内貴弘、石川ひろの

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻(東大 SPH)は、平成 19 年度に設置された公衆衛生学の専門職修士課程である。医療コミュニケーション学分野は、東大 SPH 発足時に設立され、「医療コミュニケーション学講義」、「医療コミュニケーション学実習」を実施している。これらの特徴は、第1にヘルスコミュニケーション実践、研修等を行っている実務家に多くの講義・実習を依頼していること、第2にヘルスコミュニケーションの全体像を理解してもらうためにヘルスコミュニケーションの各分野を広く、浅く網羅していること、第3に各種コミュニケーション理論・技法の違いよりも、共通性を強調することによって、多様に見える講義・実習の背景に共通するコミュニケーションというものの本質を理解できるように配慮していることにある。

「医療コミュニケーション学講義」は、大きく、総論(3 回)、対人コミュニケーション(6 回)、メディアコミュニケーション(5 回)の3つに区分される。総論は、1)ヘルスコミュニケーション概要全般、2)ソーシャルマーケティング、3)実証研究についての講義を行っている。対人コミュニケーションでは、主として医療従事者・患者コミュニケーションについて、1)医療機関の立場からと2)患者の立場からの講義(2 回)の他、3)医療者側のコミュニケーション実践法(2 回)と4)カウンセリング入門について講義がなされる。メディアコミュニケーションでは、1)新聞、2)テレビ、3)インターネット、4)エンターテインメント・エディケーション、5)ヘルスキャンペーンについての講義が行われる。「医療コミュニケーション学実習」は、対人コミュニケーション実習とメディアコミュニケーション実習に区分され、前者を前半に、後者を後半に実施する。対人コミュニケーション実習では、1)MBTI によるコミュニケーション実習(2 回)、2)コーチング実習、3)接遇実習を実施している。メディアコミュニケーション実習では、マスコミ実習として 1)模擬記者会見による新聞記事作成実習・新聞記事の分析を行う。また 2)インターネット実習(2 回)として、Blog、Wiki を用いたコンテンツの作成法を実習している。上記の他、当教室大学院生(博士課程及び専門職修士課程課題研究)、研究生その他のより深く学びたい人のために、毎週木曜日の午前に輪読会、抄読会を実施している。

[文献]

木内貴弘、石川ひろの. 東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学教室のヘルスコミュニケーション学教育の概要. 日本ヘルスコミュニケーション研究会雑誌 1(1):6-12. 2010

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野ホームページ <http://www.umin.ac.jp/hc/>

[略歴]

昭和 61 年東大医学部医学科卒業。東大病院で内科研修医後、東大大学院医学系研究科で医療情報学(指導教官 開原成允)を専攻。東大大学院医学系研究科疫学・生物統計学助手、東大病院中央医療情報部講師、助教授を経て、現在、東大大学院医学系研究科医療コミュニケーション学教授・東大病院 UMIN センター教授。